

5 ラウンドシステムにおける「聞くこと」の力を支援する 効果的な ICT 活用 (中 1~3 年, ラウンド 1)

①聞く ①話・発 ③TV ④ジャムボード ③④その他

【ここがポイント！】

①「Google ドローイングを活用したピクチャーカードの並び替え」

生徒はストーリーの概要を聞き取りながら、各自のクロームブックを使ってピクチャーカードを並び替える。ピクチャーカードを並び替えながら音声を聞き取るので、生徒はストーリーをイメージしやすい。

②「Google ジャムボードを活用した意見交流」

聞き取ったストーリーの概要について、Google ジャムボードを使って友達と意見を交流する。また、概要だけでなく扱われている表現についても交流する。

③「録音・録画機能を活用したスピーキングテスト」

対面でのスピーキングテストの代わりに、生徒はタブレットを使って録音・録画したものを Google クラスルームに提出する。

④「Qubena (キューピナ) を活用した文法事項の確認」

コミュニケーションを支える文法事項の確認として、Qubena (キューピナ) を使って生徒が自分のペースで学習に取り組む。

【実践の目標】

日々の授業で ICT 機器を取り扱う中で、生徒自身が言語への「気付き」を実感できる授業を行う。

【実際の場面】

ラウンドシステムの授業で、生徒の「聞くこと」の力を支援するため、Google ドローイングや Google ジャムボードを使用した。Google スライドを使って生徒はプレゼンテーションを作成し、そのことについて発表した。帯活動や家庭学習では、Qubena (キューピナ) を使って自分のペースで学習に取り組んだ。

◆ラウンド1での Google ドローイングの活用

生徒が教科書のストーリーを繰り返して聞き、自分のクロームブックでピクチャーカードを並び替えた。この活動を通して話の概要を把握し、「聞くこと」の力を伸ばした。



◆大型テレビで表示

各単元の最後の時間でピクチャーカードを大型テレビで表示し、音声を聞きながら、クラス全体で話の概要を確認した。そして、登場人物になりきり、音声と合わせてシャドーイングをした。

◆Google ジャムボードで生徒が纏めた内容を交流

教科書やピクチャーカードを見る前に、音声で聞き取った内容を、ジャムボード上で付箋に書いたり、画像を貼ったりした。グループで意見交流を行う中で、新しい気付き等が生まれた。

◆録音・録画機能を活用したスピーキングテスト

対面でのスピーキングテストの代わりに、タブレットを活用したスピーキングテストを行った。デジタル教科書の音声と合わせ、音読したものを録画し、Google クラスルームに提出した。教師が「聞く」と「話すこと[発表]」の内容のまとめりで評価した。これはコロナ禍においても有効な取組となった。

◆Google スライドで発表

生徒は、聞き取った内容の理解を深めるため、単元のテーマに基づき、Google スライドでスライドショーを作成し、授業で発表した。

◆Qubena (キューピナ) を使った文法の確認

言語活動を行う中で生徒が伝えられなかった表現等を Qubena (キューピナ) を使って確認した。これを繰り返しながら表現の定着を図った。

【成果と課題】

【成果】

- 生徒が、自分の端末で話の内容を聞き取ろうとする活動(ピクチャーカード並び替え)を通して、概要を理解する(聞く)力を伸ばすことができた。
- ICT を使用し、今までと違う形でコミュニケーション(発表・ジャムボード等)を図ることで、楽しみながらチャレンジしたいという生徒が増えた。
- シャドーイングやスピーキングテストにおいて、音声と合わせて音読したいという生徒の意欲が高まった。授業以外でも主体的に録音にチャレンジし、イントネーションや発音にもこだわって表現しようとする生徒が増えた。
- 音声を繰り返して聞いた表現を Qubena (キューピナ) を使って確認した。教師も生徒の個々のつまづきを把握することができた。

【課題】

- 文法事項を取り扱う時間が必要以上に多いと、生徒は細かい文法を気にしすぎて、ラウンド1の大きな目標である「話の概要を理解する」ことが難しかった。文法事項に触れるタイミングと量を見直していく必要がある。

福山市立鞆の浦学園

